



烏山地域オウム
真理教(現アレフ)
対策住民協議会

私たちは騙されない

オウム対策住民協議会 第七回学習会から

九月十二日、オウム解散を求める抗議デモ終了後、烏山区民センターで安齋育郎・立命館大学国際関係学部教授をお招きし、第七回学習会「人はなぜ、騙されるのか」が開かれた。学習会には熊本哲之区長をはじめ宍戸区議会議員、区議会オウム問題・防犯対策特別委員会の議員も出席した。安齋育郎教授の講演の要旨を報告します。

人はたわいもないことに騙される

いま、世の中でいい加減なことが罷り通っている。今日はその一つオウム真理教について話します。あの上祐も、早稲田大 学理工学部出身ですが教祖が宙に浮くのは解脱の果ての超能力だと言い、サリンを生成した土屋正実が筑波大学大学院を出た人ですが、彼はメモの中でアストラ音楽が神の声であることを科学的に実証する、と書いている。今日は試しにスプーンを曲げてみます。(ここで実際にスプーンを曲げてみせる)。実にたわいの無いことに人は騙される。麻原教祖が宙に浮くなんてのは、科学者の眼からは実にたわいもないことなのに、早稲田の理工学部を出た上祐が騙される、なぜか、その辺のことを今日は一緒に考えてみたい。

見えてる情報だけで全体を想像

小学校で習う支点、力点、作用点、テコの原理です。(ここで種あかし)。スプーンは金属、金属は固い、曲がるはずはない、三段論法です。こんな単純なことでも超能力に見えてしまう。(ここで三枚のカードの手品を見せる)人間は「真ん中に赤いカードがあります」と言っと、本当は見えていないところまで見た積もりになり、見えている情報だけで全体をイメージする、人

間はどうして騙されるか、の典型的な例です。

コックリさんの正体

サイババはサイババの教祖で彼が素手で空中をまきまきと、ネックレスや時計が出てくる。これは実に簡単な手品です。(ここで空中で手を叩いて、握った手から赤いハンカチが出てくる手品を紹介)。サイババはこれと同じことをしているだけ。サイババは超能力者だ、神の化身だと思込んだ時から、真実が見えなくなってしまうのです。

僕のところにもいろいろな人が人生相談に訪れる。京都の女子中学生がコックリ占いの悪霊に取り憑かれた。お告げでは「あなたの親は本当の親ではない。しかもあなたには実のお兄さんがいる」。自殺の恐れがある、と担任の先生から相談を受けた。コックリ占いが日本に入ってきたのは明治十七年。日本人はこれに「狐狗狸さん」と名付けた。これも科学的に説明されています。こういう質問をしたらこういう答えが出る、出るはず、という無意識の不覚筋動で動くのです。実は、この子は両親との折り合いが悪く、もしかしたら本当の親ではないのでは、こんな時に頼りになる兄がいたら、という思いがコックリさんのお告げ

の形で現れただけなのです。
「人生どう生きるか」

僕らの教育論の基本は、まず生きることを通してどのような価値を実現するか。価値を実現するために自然や社会に働きかけて自分なりの価値を見つけて主体的努力をしない。自然や社会はどんな仕組みか、価値実現のために、どこをどう変革すればいいのか。科学的な世界観を身につけたいと学生たちに言っています。自分の掲げた価値は絶対だと思いつまみないこと、価値の違いを理由にして、他人の人權を損なうようなことをしてはいけない。オウムはこれに徹底的に反している。「自分たちと価値観が合わない者の命をも奪う」、オウムはこれを実践した。他人の自己実現の権利を奪い去ったのです。

人生で追求すべき価値を見つける

こう考えてくると人生の幸せとは、自分なりに人生で追求すべき価値を見つけ、その価値実現のために、持てる能力を100%発揮し生き生きと取り組んでいける状態、これが人生の幸せの実態です。憲法第十三条に「幸福追求の権利は最大の尊重を必要とする」とあります。国が成すべきことは国民一人一人が自分なりの人生の価値を見い出すのを豊かに支援すること。教育はその一環です。もう一つは価値を見いだした国民がその価値実現の為に持てる能力を全面開放するのを豊かに支援することです。オウムはどうでしょうか。何処に住むかは憲法で保証されていて、基本的には自由ですが、これには但し書きがあつて「公共の福祉に反しないかぎり」が付いている。アレフがあれだけの殺人を犯した教団の後継組織で、現にアレフがここにいるという社会現象自体、公共の福祉に反しているとすれば由々しき問題です。

3+4は東大でもオウムでも7

そこで、なぜ高学歴の科学者たちが、超能力をひけらかす集団に引き込まれていったのか。科学的真理の研究は、学者にしてみれば東京大学である必要はない。オウムであつても構わない。これは科学的真理を追求する学者の心理です。問題意識が明確で、出来る研究者ほど、一刻も早く研究室から出て行きたくなる。麻原に「君の研究を衆生救済のために役立ててみないか」と誘われ、村井君はこれにほだされた。オウムに心を寄せた研究者には超自然現



象を信じ易いひとが多かった。そして一旦オウムに入ったら抜けられない。土屋正実は一度抜けたのに拉致され、サリンを作る実行犯に舞い戻ってしまった。

科学と価値とは関係ない

科学とは何か。科学は世界の一部分を対象としている。世界の全部は取り仕切れない。科学は価値と関係ないことを扱う。ウランが原子核分裂反応を起こすことはエネルギーを生産するが、人殺しにも使える。フォン・ブrawnという科学者はヒトラーの下でV2ミサイルという弾道弾ミサイルを開発した。その後アメリカに渡って対ソ戦略ミサイルICBM開発で指導的役割を果たした。彼は決してナチズムを信じていた訳でもなく、反ソ主義者でもなかった。彼にとって大事なことは、いかにして大きなロケットを作り、遠くまで飛ばせることにあり、能力がどんな価値実現に役立つかには無頓着だった。科学者は知的好奇心に操られてそこまでするのです。優れた能力をどういう価値を生み出すために使うか、それを踏み外すと、オウムの土屋正実のようになってしまう。サリンを合成するなんて並みの能力ではない。それを大量に人を殺すという教団の価値観に自らをくくり付けていったのです。

ABO式血液型の迷信

日本はオカルト系の番組が一年間に百本以上放映されている、世界でも極めて珍しい国です。ABO式血液型と性格の間に関連がある、という迷信があるのは、世界の先進国の中では日本だけです。ABO式は赤血球に乗っている糖の構造で分類されます。しかし性格は家庭の躰けとか、学校でどんな経験をしたか、どんな苦難の道を歩んだか、などで総合的に形成されていくのです。一九六〇年代に「血液型性格判断」という本が出た。八〇年代には京都で血液型によるクラス分けをする保育園が現れた。その人間の実態を見ないで、血液型というレッテルに因り差別したのです。科学的根拠のないものに心を囚われるのは一種のオウムの思想です。

市民生活の自由や権利を守る

我々の生活の中にオウムのものに通じかねない、非合理的なものに心を傾ける要素が潜んでいる。特に子供たちに根拠のないものに心を囚われる思考法を止めさせて、批判的な力を付けていくことが大事だと思います。憲法第十二条では「この憲法が保障する自由および権利は国民の不断の努力によって保持しなければならない」とあります。ここで保障されている自由が侵される、アレフによつて市民生活の自由や権利が侵されているのなら、その実態を明らかにし、国になんとかしろと対策を要求していくのは住民の当然の権利で大いにやって欲しい。この協議会が引き続き、あまり焦らず、持続的に、粘り強く運動を進めることを切に希望して話を終わります。

第7回 学習会アンケート

集計報告 実施日 2003年9月12日 回収 73枚

1. 抗議集会・学習会に参加したことがありますか
初めて(20)、2回目(9)、3回目(9)、4回目(4)、
5回目(7)、6回目(3)、7回目(20)
2. あなたのお住まいは
北烏山(21)、南烏山(28)、給田(5)、粕谷(6)、
上北沢(1)、八幡山(7)、その他(5)
3. 今回の安斉育郎氏の公演について
良かった(60)、まあまあだった(3)、記入なし(10)

【講演を聞いて、良かった点】

- ◇ わかりやすく超能力を科学的に話された事など、ユーモアをまじえ説得力があった。
 - ◇ 優秀な大学生がなぜ、殺人鬼になったのかなど、現代の社会で欠損している部分が理解出来た。
 - ◇ 明日をになう子供たちのために、何が出来るか、教育について何が必要か教わった気がする。
- など回答の中にはもっと具体的対策がほしかったとか、間違った宗教については名指ししてほしいなどの意見もあり

ました。

【協議会に対する意見としては】

- ◇ インターネット上の掲示板も重宝しています。協議会ニュースは、大変役に立ちます。事件が大きかったとはいえ、皆々、日常に流され忘れていきがちです。オウム側の狙いの多くはそこなのですから、それに一石を投じる意味でも続けて頂きたいです。
 - ◇ インターネットをもっと活用して、より多くの人へ協議会のオウム反対活動を伝えて欲しい。
 - ◇ 小中学生のゆとりの時間を利用して子どもたちと、オウムの話をしてはと思いがけない発想もいただきました。
- 「協議会ニュース」への意見も多く、沢山の人たちが関心を寄せて下さり、役に立っています、読んでいますと力づけて下さいました。
- 最後に回答されたすべての人が協議会活動へ何らかの形で協力すると申し出て下さいました。
- 協議会としてオウム真理教に対する抗議活動は、今後も手をゆるめる事なく続けていくつもりです。



9月12日・オウムに対する抗議行動

世田谷区議会 オウム問題・防犯対策特別委員会が視察

平成15年9月5日(金) 9時30分よりオウム問題・防犯対策特別委員会の委員13名が、オウム信者が居住する世田谷区南烏山のGSハイムを視察し、同マンションに居住する一般住民よりマンション内・屋上等を案内してもらいながら現況説明を受けた。その後、烏山総合支所において、烏山地域オウム真理教(現アレフ)対策住民協議会から倉本会長ほか3名より、現在までの活動状況報告を受けたのち、意見交換を行った。倉本会長は其中で今後の活動方針に触れ、オウムに対する国の抜本的な法改正に向けて、住民協議会として署名活動等を展開していくことを明らかにした。

募金をお寄せいただきました

- ・地域の夏まつり、盆踊り会場で行った
募金の集計 147,212円
 - ・学習会(9月12日)会場での募金 22,242円
- 神田光子様、高橋房枝様、瀬川和子様、
鈴木ゆり子様(北烏山)、牟田悌三様(深沢)、
志賀準様(横浜市) ご協力ありがとうございました。

オウム真理教問題講演会(主催 世田谷区)

日時 平成15年11月12日(水) 13:30 ~ 15:30
会場 北沢タウンホール(世田谷区北沢2-8-18)
講演テーマ 「オウム真理教問題と現代社会」
講師 浅見定雄 日本脱カルト研究会代表理事・東北学院大学名誉教授
※入場無料(申込制)
問合先 世田谷区危機管理室 (TEL 5432-2267)

住民協議会活動報告

9月5日(金) 世田谷区議会オウム問題・防犯対策特別委員会と話し合い
9月7日(日) 学習会・抗議デモチラシ配布
9月11日(木) 広報車で呼びかけ PM1:00~
9月11日(木) チラシ配布 PM6:00~
9月12日(金) 広報車で呼びかけ PM1:00~
9月12日(金) チラシ配布 PM3:00~
9月12日(金) 抗議デモ PM5:30~

9月12日(金) 学習会 PM6:30~
9月13日(土) 事務局会議
9月19日(金) 住民協議会
10月6日(月) 広報部会「協議会ニュース」初校正
10月10日(金) 広報部会「協議会ニュース」再校正
10月11日(土) 事務局会議
10月17日(金) 実行委員会
10月20日(月) 「協議会ニュース」全区版30号発行

協議会ホームページアドレス <http://www.kyogikai.jp>

この協議会ニュースは、皆様の募金により発行されています。